

編集発行
 日本共産党鶴岡市議団
 鶴岡市美原町16-5
 電話22-3313

高橋 ちづ子
 智友
 いわぶち
 国連絡所
 鶴岡市美原町16-5
 ☎ 22-3313
 FAX 24-4096

無料生活相談所
 徹 関者町11-26
 24-2414
 一 藤 加宝 64-3941
 徳 仲 田 56
 巖 井 菅 中 33-0534
 昌 本 坂 24-5993
 生 2-33-47
 守 山 田 23-6548
 1-9-1-31
 剛 谷 川 24-1677
 本 43-10
 日 枝 坂 本

除雪徹底など7項目要請

共産党市議団が豪雪対策を市に緊急申し入れ

鶴岡公園の観測地点で70cmを超え、今後も積雪が予想され市民生活に支障をきたす恐れがあることから6日、市は「豪雪対策本部」を設置しました。

日本共産党市議団は同日、皆川市長（市豪



申入書を手渡す加藤市議団長（右）

1. 道路、歩道等について市民生活に支障のない様に除雪を徹底すること
2. 除雪の際に積み上げられ支障となつて
3. 市内の一次排雪場所（公園等）が満
4. 除雪作業、雪下

5. 高齢者や障害者など、要配慮者に対して聞き取りを行い、除排雪作業の支援をおこなうこと
6. 農業施設被害の実態把握と、その対策と

支援をすること
 7. 水道管の凍結・破裂によって漏水した世帯に対して、水道料金等の減額調整ができる旨の配慮説明を周知徹底すること

住民の視点が、立地を選ぶ過程に全く入っていなかったか、または無視して進めてきた。「処分場計画を白紙に戻してほしい」と訴えました。

市からは、増田亨市民部参事（兼）危機管理監（兼）防災安全課長と、岡部信宏防災安全主幹が応対。党市議団は住民から寄せられた声を伝えました。

また、共同代表の五十嵐淳一氏は西部養豚団地時代に取引交わした「覚書」について、用途変更の場合に地元自治会や住民と協議することとなつてい

計画白紙に戻して

処分場問題で市民の会が市長と懇談

大荒地内ごみ最終処分場を考える市民の会と皆川市長との懇談が5日、市役所で行われ、5人の日本共産党市議団と田中晃三川町議も参加しました。

道放流に変更するなど対策をとりたい」、また「整備が遅れた場合の影響などもある」など理由が述べられ、「お願いせざるを得ないもの。ご理解いただきたい」と答弁がありました。

参加者で、候補地の近くに住む佐藤妙子さんは、これまでの心労を含め、「絶対建設を止めていただきたい」と訴えました（2画）。

第79回県党会議開催

来春の県議選に關とおる氏の擁立決定

第79回山形県党会議が4日、寒河江市で開かれ、寒河江市で開かれ、

「候補地選定のプロセスなどで大いに反省しなければならぬ」「排水を河川放流から下水

市民の会から、共同代表の佐藤安太郎氏が①立地を選ぶ過程について、②合意形成のプロセスについて6項目の訴えがありました。

また、以前の要請で示していた西部養豚団地と関係者の「覚書」について問われたところ、「（担当課より）説明を受けてない」との弁があり、市長への担当課からの説明が十分である事も明らかにしました。

鶴岡市長選、市議選などを総括し、「憲法改悪反対3000万署名」、参院選と統一地方選の勝利、野党と市民の共闘の再構築などの活動方針を代議員全員の賛成で決定しました。

役員選挙後の県委員会総会で決まった党三役は次のとおりです。

- 委員長 本間 和也
- 書記長 横山 賢二
- 副委員長 太田 俊男
- 同 渡辺ゆり子（いずれも再任）



皆川市長（右端）と懇談する市民の会

最も強調したのは「水源地を守りたい」「里山・荒沢山を守りたい」「埋蔵文化財・須恵器の窯跡を守りたい」、市は地元住民がそこでどう生きてきたか、これからどう生きようとして

懇談後、参加者から「候補地選定など、まだ不可解な点が多い」との声があがりまし

高すぎる保険料をどう引き上げか

総合事業見直し、移動手段確保対策求める声

第3期介護保険事業計画策定
第3期介護保険事業計画策定

第3期介護保険事業計画策定懇話会が31日開かれ、来年度からの第7期介護保険事業計画について協議されました。

菅井巖、坂本昌栄市議が傍聴しました。

市当局から、第7期（平成30～32年度）の給付見込と介護保険料の試算が示されました。

⑤受給者増加による自然増、
⑥施設整備、です。保険料抑制の要因として6期中の4億5千万円の基金積立金取り崩しや被保険者数の増加をあげています。

見直す考え

委員からは、昨年4月から始まった総合事業の住民主体型・通所型サービスで、懸案となっている基準について質問がされ、当局からは「見直す考えである」旨の答弁がありました。

第7期介護事業計画素案については、委員から「自主活動を促進する中で、高齢者が行うボランティア活動について、その定義を低賃金の労働者

とする様な誤った見方はしないほしい」との意見や、「老人クラブの減少、役員のみなり手がいない実態があり、支援が必要」との声が上がりました。

また、高齢者の移動・交通対策について「地域での介護予防活動でも、車での送迎なども必要」「バス会社が若者の利用促進策を図るといいうが、高齢者の支援もしてほしい」などの要望が出されました。

負担は限界を超えています。その解決方法は、公費部分（国庫負担・県・市町村負担）を拡大し保険料に依存する仕組みを改革していく以外にありません。

また当面の課題として、介護保険料を抑えるため、市の一般会計から繰入れを図るべきです。

市ではホームページで第7期介護事業計画の素案について公表し、2月1日～15日まで意見（パブリックコメント）を募集中です。

事業運営期間		保険料(月額・円)				
		全国平均	県平均	鶴岡市	全国比	県比
第1期	平成12～14年度	2,911	2,595	2,750	△ 161	155
第2期	平成15～17年度	3,293	3,107	3,353	60	246
第3期	平成18～20年度	4,090	3,799	4,158	68	359
第4期	平成21～23年度	4,160	3,902	4,392	232	490
第5期	平成24～26年度	4,972	4,784	5,583	611	799
第6期	平成27～29年度	5,405	5,640	6,242	837	602

* 鶴岡市の第1期、第2期の保険料は、旧鶴岡市。
* 第1期の全国平均比以外は市の介護保険料は、全国・県平均を上回っている。

保険料は、これまでの基準額に比べ月額約3600円アップの6600円程度との見込みが示されました。その上昇要因は、
①第1号被保険者（65歳以上）の負担割合が22%から23%に上昇、
②財政調整交付金の交付割合の減少、
③30年度の報酬改定、
④31年度の消費税増税・処遇改善加算の見直し、

在来作物鶴岡で61品目

ユネスコ食文化創造都市推進事業報告会

ユネスコ食文化創造都市推進事業報告会が2日、開催されました。

第一部では山形在来作物研究会会長・江頭宏昌氏の在来作物研究調査における新規認定作物の紹介がありました。

江頭氏は、在来作物とは「ある地域で、世代を超えて、栽培者によって種苗の保存が続けられ、特定の用途に供されてきた作物」であり伝統野菜とは歴史

や栽培場所の違いがある。2007年以來この10年間で鶴岡市では15品目増えて2品目減り61品目になった。波渡なす（中波渡・大波渡）・三角そば（越沢）・延命菊（家中新町）・満吉なす（湯田川）

・赤ねぎ（松尾）・タデ（黒川）などが紹介され、「在来作物に対する関心が高まり、発掘が進んだため」と語りました。その後、辻調理師専

門学校小山伸二氏は、料理人のフィールドが変化し、農業と直接手を結び連携して、持続可能な食文化を作り上げて行かなければならないと述べました。

蔵屋敷LUNA佐藤巨氏、イタリア食料大 学教員レイモンド・クスマーレ氏の講演があり、第二部では鶴岡の食材を生かすスペイン・イタリアの調理方法を生かした料理が振る舞われました。

第一部に菅井巖市議と坂本昌栄市議が参加しました。

大荒地区区住民 佐藤妙子さんの訴え

昨年12月7日の市議会を傍聴し、「今まで現地調査などに1億4千万円ほど掛かり、工事が遅れた場合、また多くの費用が掛かる」「事業内容についてご理解をいただいていない状況にある」「真摯に反省しお詫びをしてご理解を得られるよう、丁寧の説明してゆきたい」とのお話（市長の一般質問に対する答弁）がありました。

この大荒地区ゴミ最終処分場候補地は、初めから反対があり、当時の自治会長も市の方に「この話は無かったことにしてもらいたい」ときっぱり断ったとの経緯があります。

反対運動がこんなに広がっているにもかかわらず強引に現地調査を行う、これを既成事実として私たち住民を黙らせようとしているのではありませんか。

目の前で大型車が次から次へと入ってくる、それを見た私たち住民の怒りがどんなものかわかりますか。どんなに今までお金がかかったとしても、大荒地区での建設は止めていただきたい。

初めから市のやり方はおかしいです。そんなに安心安全で何も問題を強行しようとしている「あなた達」の所に建設すればいいのではないですか。

私達の方に建設されれば、私達の里山「荒沢山」は無くなりません。絶対、建設を止めていただきたい。

下水道課入札結果（ ）内は予定価格
2月5日入札分（黒川地区内）
・市集落排水事業 黒川地区人孔工事（黒川地区内）中止